

ぎかい



2017.7.18

小国町議会だより 第**133**号

この地を見つめて



◆小国町天然記念物第1号◆
黒沢のかやの木

表紙関連記事は16ページ

高校生議員 大いに語る!!

主な内容

- 6月定例会 2～4ページ
- 一般質問5名 5ページ～
- 高校生議会 10～13ページ

平成29年度補正予算等

6月
定例会

このように決まりました

一般会計203万8千円を減額
一般会計予算総額
59億3196万2千円

6月定例会の あらまし

第4回定例会が6月6日から9日までの4日間の会期で開催された。

1日目に、町長行政報告の後、請願2件の審査を総務厚生常任委員会に付託した。一般質問では病院療食等が取り上げられ、3人の議員が町政を問うた。

2日目に、2議員が一般質問を行ったほか、常任委員会で請願審査を行った。

最終日に、請願審査採決を行い請願2件を不採択とした。上程された補正予算8議案、条例改正案1件を原案通り可決した。追加提案された農業委員会委員の任命案件7件に同意して閉会した。

内閣府地方創生人材支援制度 国家公務員一名派遣受け入れへ

国では平成27年度から地方創生人材支援制度を推進している。

地方創生に積極的に取り組む市町村に対して、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を市町村長の補佐役として派遣し、地域に応じた処方箋づくりを支援する「地方創生人材支援制度」に小国町も派遣を希望していた。

平成29年度は全国55市町村への派遣が決定し、小国町には防衛省から1名派遣されることに

なった。

常勤職員として本年8月1日から平成30年度末までの2年間派遣される予定。

その他一般会計補正予算は、年度当初の人事異動に伴い人件費の追加および組み換え等を行った他、降雪や強風による農業施設への支援、民間事業者が進める6次産業化への取り組みや、畜産施設および特用林産物生産施設等の整備に対する助成、観光施設および体育施設の修繕、社会資本整備総合交付金の内示額の減額に伴う事業の見直し等、合計203万8千円を減額した。補正後の一般会計予算総額は59億3196万2千円。

質疑応答

Q 人件費の財源は自主財源としているが、国家公務員の派遣なので、国からの補てんはあるのか。

A 町が派遣の要請をした。国から人件費の補てんする制度では無い。



一般会計補正予算の主な内容

総務費	地方人材支援制度での派遣受入	756万円
	嘱託職員雇用	384万8千円
	農業施策分野に携わる「農業支援専門員」と白い森まるごとブランド構想の推進に携わる「白い森まるごと戦略推進員」の2名を雇用	
農林水産業費	維持補修工事	274万円
	役場庁舎内時計、カリヨンタワー時計の修繕 パークゴルフ場駐車場陥没部補修	
	元気な6次産業化ステップアップ事業	50万円
商工費	特産品等の販路拡大のためのホームページのリニューアルを計画している町内業者への支援	
	畜産規模拡大支援事業	218万8千円
	飼料用米粉砕機およびソフトグレインサイレージ保管庫整備計画への支援	
土木費	山の幸振興対策支援事業	76万6千円
	ナメコ生産施設の整備計画をしている町内業者への支援	
	梅花皮荘水道配管設備ならびに冷凍庫修繕費用	295万6千円
教育費	道の駅資材保管庫解体費用	120万円
	路面整備工事	▲2490万円
	交付金削減に伴い舟渡上平線舗装工事の延長を1000mから370mに短縮する	
教育費	町道舗装工事	1062万8千円
	町内企業の工場新設に伴い、物流道路としての機能が高まった代場山線の一部の舗装工事	
	町営住宅幸町団地解体工事(2戸1棟)	380万円
教育費	閉校校舎消防設備修繕費用	257万7千円
	消防法に基づく設備点検および立ち入り検査の結果による	



特別会計補正予算（主な内容）	金額
簡易水道事業特別会計	13万円
水位計システム維持管理	
訪問看護特別会計	760万5千円
人事異動に伴う人件費	
介護保険特別会計	388万3千円
介護保険システム改修業務委託	
後期高齢者医療特別会計	10万円
保険料還付金	
事業会計補正予算（主な内容）	
病院事業会計	37万円
人事異動および法定福利費の増額に伴う経費の組み換え	
水道事業会計	11万8千円
新水源地の電気保安業務に要する経費	
老人保健施設事業会計	36万2千円
人事異動および法定福利費の増額に伴う経費の組み換え	

町立病院に関する 2件の請願 不採択



請願名	請願者	請願の要旨	付託委員会	委員会の結果	本会議採決結果
小国町立病院の看護師を募集することを求める請願	本間義信	看護師の労働強化につながり、様々な所に無理が生じないように、早急に看護師を募集し、安全で安心して医療が受けられる体制づくりを求める。	総務厚生	不採択	不採択 賛成3人 (石山・小関・伊藤) 反対6人 (今・間宮・遠藤・小林・安部・米野)
「小国町立病院がどうしたら赤字解消できるのか」調査特別委員会を設置して、調査解明を求める請願	本間義信	町立病院の経営状況が厳しいのであれば、議会で調査特別委員会を設置して調査、解明すべきである。	総務厚生	不採択	不採択 賛成3人 (小関・伊藤・米野) 反対6人 (今・間宮・石山・遠藤・小林・安部)



農業委員会委員 7名の任命に同意

平成29年7月19日をもって農業委員会委員の任期が満了となることから、平成28年12月定例会で決定した「小国町農業委員会委員等の定数に関する条例」で定めた定員7名について同意した。任期は平成29年7月20日から平成32年7月19日まで。

《新たに任命された

農業委員会委員》

- ◎伊藤 実千昌 氏 ◎川崎 吉巳 氏 ◎横山 信一 氏
- 小国町田沢頭 小国町大石沢 小国町泉岡
- ◎小嶋 剛 氏 ◎大谷 健人 氏 ◎安部 茂 氏
- 小国町町原 小国町西 小国町小股
- ◎舟山 秋子 氏
小国町町原



第3回臨時議会が5月1日に開催された。専決処分の承認、条例の制定について4議案が上程され、原案通り可決した。

上程された議案の採決のほか、任期を迎えたことによる常任委員会委員の選出が行われ、各常任委員会委員が決定した。合わせて議会運営委員会委員についても選任された。【詳細は15ページで】



こ せき かず よし
小 関 和 好 議員

療食の外部委託について 誰のための外部委託か

**町内商店の経営を圧迫
すると思われるが**

小関 この度の病院の療食業務の外部委託は、年間の経費が700万円程増加し、町内商店からの食材納入額が2000万円程減る見込みと聞いている。

人口が減り商店の経営も大変だと聞いている。高齢者が増え続ける当町において商店が消滅する事態は回避しなくてはならないが、委託業者との話し合いはどうなったか。また、この度の外部委託は、農商工の連携・地産地消についても重要な施設を失ったと考える。外部委託に至った経緯と、その時期を聞きたい。

**人材不足等に対する
リスクの回避**

町長 平成27年12月までは、調理員12名で交代勤務も円滑に確保できる体制であったが、翌28年4

月には10名となり栄養士が調理業務を補完するなど不安定な体制となった。

断続的に募集を行ってきたが応募があつても短期間で退職する事態が続いてきた。また、調理員の年齢構成や求人に応募状況等を考えると、安定的な食事提供を維持できないと危惧した。療食は、365日継続して3食を提供する業務であるが、置賜管内でも募集に対して応募がない状況にある。

こつした環境を認識したうえで、調理員等の人材が不足する場合の補充の実態や災害時における食材の確保等のリスクを回避していくため、スケールメリットを活かした対応が可能な民間事業者に委託することとした。

検討は、東日本大震災後に行つたが、今回、平成28年に検討を再開するまで具体的に動いたことはなかった。また委託業者との話し合いについて

は、4月12日に町内業者からの食材納入に向けた説明会が開催され、その結果、3店舗からの納入業者の登録と食材の見積もりがあつたと聞いている。町としては、委託業者に対し引き続き出来る限り町内からの食材調達を要請していく。また、町内産食材を活用した献立のあり方を検討するなど、町内からの食材確保に取り組む。

小関 外部委託に至る前に調理員の処遇改善等の努力はしたのか。

**調理員だけの
改善は困難**

病院事務長 色々な職種があり調理員だけ賃金を改善することは難しい。

改善の考えは

小関 この度の療食の外部委託は、役場職員の仕事と責任の軽減だけである。商業者の動向や労働



人手不足の解消が求められる

者の現状を把握して、早急に改善策を取るつもりはないか。

**入院患者等の安定
した食事提供の為**

町長 この度の外部委託は一義的に、療食を受けている患者の為として決

**改善に向けて
努力していく**

病院事務長 月に一度の受託者側との話し合いの場において状況を確認し、改善すべきところは改善していきたい。

情報共有し住民参加 —自治基本条例制定を—



こばやし よしみ
小林 嘉 議員

情報共有、住民参加は自治基本条例制定で

小林 町長は町づくりに関わる基本的な考え方として「情報の共有化による住民参加のまちづくり」を掲げ、行政運営の透明性を確保し、協働の町づくりを目指すとしている。

町民にわかりやすい町政運営により、行政と住民が思いを一致して町づくりに取組むため、自治基本条例の制定を検討すべきと考えるが見解を聞きたい。

問題・課題の指摘あり、取り巻く議論の動向をみて

町長 自治基本条例は行政への住民参加の保障、情報の共有、住民・議会・行政それぞれの役割や責任などを定めたもので、住民投票制度を盛り込んだ例もあり、「自治体の

最高法規」とも言われている。平成13年4月に、北海道二七〇町の「まちづくり基本条例」が最初

とされており、本年3月現在、全国365自治体で制定、県内では、白鷹町、川西町など6市町で制定している。

自治基本条例の制定意義が、住民意識の高揚により住民が主体的に行政に参加し、自治体と一緒に進んでいくことにあることから、第4次小国町総合計画基本構想後期計画に制定を掲げている。

人口減少時代のいま、「住民」の概念や最高規範性、直接民主主義制度の運用のあり方など、問題点や課題も指摘されており、まずは議論の動向を踏まえる必要があると認識している。住民と民間と行政の協働の仕組みを精査のうえ、基本的な

考え方を整理していくことが肝要と考えている。

小林 議会では、透明性を高め町民に開かれた議会の構築を目指し、議会基本条例の制定を検討中である。町も、住民・議会・行政が協力し合い、足らざるを補い合う町づくりにしていかねばならないことから、是非条例制定を検討すべき。

町長 条例の制定には、色々な角度から検討・議論が必要。情報を収集する。

第5次基本構想・基本計画は策定するのか

小林 現行の第4次まちづくり基本構想は、地方自治法によって策定を義務付けられ、平成21年度から30年度まで10年間を運用期間とし、前期、後期の5年間単位で基本計

画を策定、議会審議を経て運用している。いま

並行して「小国町地域創生総合戦略」が平成27年度から31年度までを計画期間として、期待すべき実現可能な目標値を設定して政策展開中である。

平成23年の地方自治法の一部改正により、基本構想の策定義務は廃止されている。今後は基本構想・基本計画をどのように考え対応していくのか聞きたい。

今後のまちづくりの基本方針として策定し、議決案件としたい

町長 法の改正により市町村基本構想の策定義務は撤廃されているが、これから総合的かつ計画

個性豊かで活力に満ちた社会の実現



自治基本条例のイメージ

的なまちづくりを進めるため、本町を取り巻く環境の変化などを考慮し、今後のまちづくりの基本方針となる基本構想の策定は不可欠と考えており、本年度と来年度の2カ年にわたって策定作業を進める。

基本構想の決定については、議決を要しない事案となつているが、引き続き議決いただく案件としたいと考えている。



増え続ける空き家への対策は

今 康成 議員

空き家の現状把握は

今 平成25年度に住宅実態調査を行っているが人口減少が加速するに伴い、使用されていない建築物の状況は変わっているのではないかと。

「危険、損壊家屋等」は1軒

町長 25年度調査で「危険、損壊建物」と判断された11軒について4軒の解体が完了している。残りについては、積雪等のため軒先等の破損が見受けられる。

その後の調査で「危険、損壊家屋等」と判断した建物が4軒で、現状で11軒を「危険、損壊家屋等」として把握している。

空き家対策の法律も施行された

今 空き家等対策の推進に関する特別措置法を踏まえた町の対策はどうなっているか。

法に基づく対策検討協議会を設置した

町長 昨年度、有識者と関係部署の職員からなる「小国町特定空家等対策検討協議会」を設置して災害発生時に支障となる恐れのある空き家等を明らかにするとともに、利活用による空き家の改善を検討していくため、必

要となる判定の内容と物的判断基準を取りまとめた。

今 今年度は特措法に定める「目視等調査による空き家等の把握調査」を実施し、改めて現状と実態の把握に努める。

今 空家家問題への対

応として条例の制定が必要ではないか。

法の制定により条例が無くても対策が可能だ
町長 「空家等対策の推進に関する特別措置法」の制定により、空き家の適正管理条例に規定すべき内容は、ほぼ同法で定められているため、現状においては条例を制定し

なくても一定の対策を講じることは可能になっている。

実態調査の結果や「空家等対策計画」の策定に向けた取り組みの中で、本町独自の対策が必要と判断される場合は、条例の制定についても検討していきたい。

2. 空き家の管理 ~あきやをしっかり管理しよう~

建物の劣化を防ぐとともに、周辺へ迷惑をかけることが無いように、空き家はしっかりと管理しましょう。

ステップ1 これだけはやっておこう

- ◆ご近所への声かけ
空き家になる場合はご近所にもその旨を伝え、緊急連絡先を伝えておきましょう。ご近所の目により、不法侵入などのリスクの回避につながります。
- ◆不審者の侵入防止
長期間空き家になると、不法侵入や放火のリスクが高まります。しっかりと施錠し、貴重品は中におかないようにしましょう。また、錠や鍵、生垣などを手入れして見通しを良くしておいたり、人感センサーつきの照明を設置したりと、対策を取りましょう。
- ◆風通し
普段生活をしていない空き家は空気が回らないため湿気がたまり、カビや腐食の原因になります。たまに立ち寄り窓を開け、風を通すだけでも建物の長持ちにつながります。
- ◆雪に注意
山形県内では冬期間の雪下ろしをしっかりとっておかないと、倒壊や落雪により周辺へ被害を与えるかもしれません。冬季は特にリスクが高まるため、雪には十分注意しましょう。

定期的に宿泊するなど、実際に利用することも効果的です

参考：山形県県工整備部発行「空き家大辞典」より

ステップ2 定期点検

空き家は定期的な点検を目安に行いましょう。状況を確認しておきましょう。

外部	<input type="checkbox"/> 雑草の繁茂	<input type="checkbox"/> 樹木の越境	<input type="checkbox"/> 雨どいの破損	<input type="checkbox"/> 屋根材などの破損
	<input type="checkbox"/> ポストの整理	<input type="checkbox"/> 玄関の施錠		
内部	<input type="checkbox"/> 通風・換気	<input type="checkbox"/> 水周りの通水	<input type="checkbox"/> 雨漏りの有無	<input type="checkbox"/> 家財の整理
	<input type="checkbox"/> 室内の清掃	<input type="checkbox"/> 貴重品は置かない		

ステップ3 管理代行サービスを活用しよう

居住地が離れているなどの理由で自ら管理ができない場合は、管理代行サービスの利用を検討しましょう。専門業者に管理を依頼する他、シルバー人材派遣センターなどに除草を依頼するなど様々な方法があります。

P19 利活用相談窓口

●人工透析治療事業について ●小国町次期総合センター整備計画について



いしやま くみ こ 議員
石山久美子 議員

**検証結果について
納得できない**

石山 人工透析治療の計画をなぜ中止にしなければならなかったのか。

町長 「医療安全の観点」

「医療従事者関連の不安についての観点」「町立病院全体の経営状況を踏まえた上での透析分野の経営の観点」の検証結果として、町立病院で人工透析治療に取り組むことが難しいものと判断した。

石山 命を繋ぐ治療は人工透析しかない患者さんの思い、そのことを支援している町民の思いを町長はどのように考えているのか。

町長 平成28年12月定例会で提出された請願を、議会が趣旨採択されたことは承知している。3月定例会の一般質問で真摯に受け止めている旨を申

し上げた。

透析治療の第一義は患者さんの命を守ることであり、その点において不安を抱えたままスタートすることは適切でないと判断した。

石山 透析治療計画の突

然の中止により、支援していただいた山形大学医学部、公立置賜総合病院、山形県等各機関との関係を心配しているが。

町長 人工透析実施の是非に関して、関係各機関

に段階的に事情説明に伺っている。小国町あるいは町立病院としての事情等についてご理解を賜っており、懸念されるような事態には至らない。

石山 小国町立病院での

透析治療が可能になれば患者さんの通院の軽減はもとより、医療費用も確実に小国町に入り財政面でも安定するものと考え

るが。

町長 財政面でも安定するという段階に至るには多面的に検討することが必要である。

また、通院負担の軽減を図るため送迎支援体制を整えて実施している。概ね好評であり、意見等を整理しながら継続して行う。

小国町次期 総合センター

整備計画について

石山 基本計画に至る経過と今後の整備に向けた進め方は。

町長 「おぐに開発総合センター」は建設から約

半世紀が経過している。施設の老朽化が著しい状態となり、社会経済状況も大きく変化し、公共施設としての設備や機能に不足等が生じてきている。本町が抱える課題に対応していくため、平成26年

度よりまちづくりの新しい拠点施設となる次期総合センター建設に向けた

取り組みに着手した。

これまで、住民ニーズ等の把握を行うとともに、町民で結成した検討委員会での議論と意見を反映し、整備に向けた「基本構想」「基本計画」をとりまとめた。今後は、この計画に基づき、基本設計に取り掛かる。

石山 住民アンケートの

結果があったが、町民が望んでいる「総合センター」とはどのような機能を持った施設を予定しているのか。

町長 図書館機能

など生涯学習に係るニーズ、身近に交流、憩える場としてのニーズ、情報発信や交流機能としてのニーズ、芸術文化の享受

や地域文化の発信ニーズの4点である。

石山 人口減少、少子高齢化、税収の減少と不安な状況である。多額の整備事業費用の確保は。

町長 町の財政状況を考えると、補助金と交付税措置のある地方債による財源の手当てが望ましいことから、補助金制度の研究と政策提言を展開するとともに、重要事業として新たな拠点整備に係る補助金制度の創出等について国、県に要望を行っているところである。



約半世紀が経過した「21世紀への築城」



介護職の人材確保について

ま みや ひさ え
間宮尚江議員

間宮 新規事業「介護職仲間創出事業」についての取り組み、将来の高齢者率を考へての直接、間接的な長期的プランについての所見を伺いたい。

町長 「介護職なかま創出事業」として、介護資格取得支援事業は、介護職員初任者研修修了者への受講料のうち8万円を上限に二分の一を助成する制度に加え、今年度から実務者研修資格を取得した方に受講料のうち10万円を上限に二分の一を助成するもの。

介護職員初任者研修事業は、町内在住者の介護技術の取得を促進する為に、今年度社会福祉協議会に業務委託し開講するものである。

また、今年度「町介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画」の策定において、高齢者がいきいきと暮らすことができる計画づくりに取り組む。

間宮 福祉の基礎ともなる人材確保が充足しているのか。

人材確保に向けての養成校や高校へのアプローチをどのように展開していくのか、離職率はどのような状況であり、その理由を限界あるものと考えられるなら、その所見も伺いたい。

町長 小国高校に在学する生徒及び移住者の方には介護資格取得支援事業では15万円を上限に、受講料を助成することとし、介護職員初任者研修事業は無料で受講できるものとした。

介護の担い手不足が将来は深刻になると懸念される。「介護職なかま創出事業」の継続により、介護技術を有する町民を育成し、地域でも高齢者を支える体制の強化を図るとともに、町内の介護事業所の人材不足解消に努めていく。

また、町内3つの事業所における過去5年間の平均離職率は、9.2パーセントであるが、理由は把握していない。

また、町内3つの事業所における過去5年間の平均離職率は、9.2パーセントであるが、理由は把握していない。

間宮 臨時介護職員を含め、有資格者、経験者の人材登録的な施策、介護奨学金等の導入を展開させることによって、移住対策、定住促進の仕事提供に繋がっていくものと思われるが、どのように考えているか。

町長 国では介護人材確保のため「離職した人材の呼び戻し」「新規参入促進」「離職防止・定着促進」の3つの柱を打ち出している。国の政策を効果的に導入するとともに「介護職なかま創出事業」の実績等を勘案しながら制度の充実を図り、必要な人材確保に努めていく。

間宮 小国高校へのアプローチとして、具体的にどのようなことを考えているか。

ローチとして、具体的にどのようなことを考えているか。

健康福祉課長 これまで二度事業説明に伺っている。

また、今年度小国高校を希望する中学生にもピールしていただけるようお願いをしている。

間宮 臨時職員への研修プログラム等への参加助成を行っているか。

介護老人保健施設事務長 正規、臨時職員と区別することなく研修への参加、又参加費用を助成している。

ている。

間宮 平成29年に改正された厚労省の「介護職員処遇改善加算 算定」に係る体制の「新要件」を満たすものとして今年度の申請は行われたか。

介護老人保健施設事務長 申請を行い「要件」に合致したとして、加算を取得している。

間宮 今後さらに高齢化が予想される中で、これまで町を支えてこられた高齢の方々を、若い世代の方々が介護していく社会づくりを期待する。



温身の郷での介護のようす

高校生議会

平成29年2月22日(水)



2月22日午後1時40分、役場4階議場で開会

魅力と活気あふれる
まちづくりへの提言

小国町議会では平成27年12月の定例会において「小国町議会活性化特別委員会」を設置して「町民に開かれた、わかりやすい議会」を目指した活動を展開しています。

そして町民に開かれた議会活動の一環として、2月22日、町議会が主催して「高校生議会」を開催しました。

今回の高校生議会は小国高校2年生（当時）井上美空さんが議長となつて会議を進行し、6名の生徒が議員となり、まちづくりへの質問や提言を、一般質問の形で行いました。そして町議会議員が担当課長となつて、生徒たちの質問に答弁しました。

まちづくり ユニバーサル デザインを

▼今 陽 洗

少子高齢化や次代を担うことも達の健全な育成のための環境整備を進め、日常行動を安全なものにするため、歩道整備を中心とした交通安全対策等を進めていく必要があると考える。今後の小国町のユニバーサルデザイン化をどのように進めていくのか。

▼地方創生課長

(今康成議員)

平成28年に「小国町都市計画マスタープラン」を策定しており、ユニバーサルデザイン化についても盛り込んでいる。しかしなかなか進んでいないのが現状。今後の整備の中で、行政だけでなく町民の皆さんの意見を聞

きながら、取り組んでいく必要があると思う。

「おぐに」への 愛着を醸成

▼相馬 杏哉

少子高齢化などが原因で人口減少に拍車がかかっている。要因は若者の町外への流出が原因なのではないのかと考えた。北海道栗山町では地元住民の愛着度醸成を促進しながら「住みたい、住みづづきたい」と思っづづランドイメーজの定着化を図っている。他にもおもしろく効果的だと思われる取り組みを多くの自治体で行っている。小国町では若者の流出をどのように受け止め、町づくりしていかうと考えているのか。

▼定住促進課長

(小林嘉議員)

人口減少の要因として

町外への進学や就職等がある。加えて出生率の減少や、若者の減少は「町の消滅」に繋がる恐れがあることから、大変な危機感を感じている。

町では「白い森の国おぐに」のブランドづくりを目指して、20代、30代の若者が中心となった「白い森プロジェクト準備会」を立ち上げ、地元への愛着度醸成を深める取り組みを始めている。若い方

の発想力、行動力は活気ある町づくりに重要である。高校でも議論を深めてご意見や提言をいただきたい。

白い森構想と 活性化

▼安達 龍輝

小国町の「白い森構想」では、3つの交流基地の

整備、機能アップとそれを有機的に結びつけることで交流と定住の環境整備を図るとしている。

しかし人口が8千人弱に減っていることから、よりよい町にするためには次の3点について対策が必要と考える。

1つは「観光客の減少」対策。2つ目は「定住促進」対策。3つ目は「若者の地元離れ」対策。町ではどの様に考えているのか。

制度など、本町への帰帰を支援していく。

高齢者福祉の 充実を

▼笠原 一輝

小国町には施設入所の待機高齢者が多数いる。その解決のため介護施設を増設する必要があると考える。そしてそこで働く人を増やすため、もつと小国の魅力を発信し、町外からも職員を確保することが重要だと思っ

また、老後を小国町で過ごしてもらつ「ふるさと福祉」や町立病院がアスモで行っている「まちかど医療相談室」を発展させて、町民総合体育館や廃校舎を利用して、高齢者同士が集まるサービ

▼長寿福祉課長

(石山久美子議員)



真剣なまなざしで町政を問う

▼白い森町づくり課長
(間宮尚江議員)
ハーフパイプや森林セラピー基地などの交流施設や、石楠花祭り、熊祭り、黒沢峠祭りなど地域住民が一丸となったイベントが多数ある。こうした町の豊かな交流資源を活かして、誘客の拡大につなげる。また雇用のマッチングや起業支援などを行い移住定住の促進を図る。さらに教育奨学金

高齢化の現状から、高齢者福祉の充実を図ることが、重要な課題である。町では「住み慣れた地域で孤立することなく、その人らしく最後まで生活できるように」保健・医療・介護が連携したサービスの提供を行っている。笠原議員の提案を参考に、より充実した活気ある福祉施策の展開を目指していく。

SNSで 魅力発信

▼白川 祐衣

小国町には昔から変わらない雄大な自然がある。私たちには当たり前前の風景だが、他県や首都圏に住んでいる方たちには魅力的で素晴らしいものだと思う。

しかし、それを全国に発信する力が足りないと思う。SNSの活用など

様々なピーアール方法で知名度を上げている自治体がある。注目され知名度が上がれば、移住者が増え人口減少の歯止めにもなると考える。

▼交流促進課長

(小関和好議員)

町内では道の駅情報コーナー、町の駅をはじめ梅花皮荘やりふれなどの観光交流施設、物産品を取り扱う直売施設に観光パンフレットを置いている。また置賜管内の観光協会に観光パンフレットの配置をお願いしている。さらに小国町のホームページでの観光案内、フェイスブック等によるイベントの告知を行っている。ピーアールの目的が移住促進なのか、観光の食なのか体験なのか自然の癒しなのか、すべてを宣伝したいために焦点のぼけた情報発信になっているかもしれない。

今後は「白い森プラン



議員はいつもとは違う執行部側の席に

農林業振興と 道の駅整備

▼益田 晃汰

農業や林業に力を入れ

「ド構築」を目指し、効果的な情報の発信に努める。

る必要があると考えるが、今後どのように発展するのか。

また、道の駅はトイレが小さい、店が少ない、人が来にくいなどのイメージがある。町内外の親子が一日遊べるように遊具や、花を植えるなどの工夫が必要と思う。

▼産業推進課長

(遠藤和彦議員)

農林業を取り巻く環境は、担い手の高齢化、産地間競争など厳しさを増しているが、小国の特性を活かし、農林業を目指す若者が夢を持って従事でき、将来にわたって継続していけるよう、関係機関や団体と行政が一体となって支援に取り組んでいく。

道の駅は本町の魅力や情報の発信基地として重要な役割を担っている。町では再整備について検討する会議を開催し、トイレの改修やWiFiの範囲拡大、外国人向け案内板整備などを優先して実施することとしている。たくさんの人たちが気軽に道の駅を利用し楽しいひとときを過ごせるように取り込んでいく。



小国高校2年生全員が傍聴

議員になつてみて



こん 今 陽光くん

小国町の現状や財政状況、福利厚生などについて知ることができました。小国町の状況

を知ることは、私たちの進路決定にも影響すると思います。

高校生議会の議員として参加してとても緊張しました。高校生議会での学んだことをこれから学校生活に生かしていきたいです。



いのうえみく 議長 井上美空さん

議長という貴重な体験をさせていただきました。始めは務まるのか不安でしたが、最後

議長という貴重な体験をさせていただきました。始めは務まるのか不安でしたが、最後

に温かい拍手をいただいていた、嬉しい気持ちになりました。議長席から小国町の現状を改めて知る事ができました。人口減少や少子高齢化と向き合い、できることがあれば力になりたいと思いました。



しらかわ ゆい 白川 祐衣さん

新たな体験を沢山積むことができました。質問を考えることで小国町の事を詳しく調べ、

町を知る事ができ、小国町への興味が増しました。

これまで、議場を見たことがなかったので実際に席に座り、発言し、町議会の方に聞いてもらい素晴らしい経験になりました。



そま きょうや 相馬 杏哉くん

小国町で起こっている問題や施策を知ることができ、このような機会がなければ認識できなかったことに気づくことができました。最初は質問することは

簡単なことだと思っていきましたが、他地域との比較や自分の考えを盛り込まなければならず大変でした。町議会の方々には真剣に受け止めて、答弁してくださいました。

本番では緊張しましたが、質問し自席に戻ると達成感がありました。



かさほら かずき 笠原 一輝くん

一般質問するにあたり、小国町についてよ

く調べました。そして、小国町の良さや改善点などを自分なりに理解できたと思います。今回の体験は高校生が小国町の現状を理解するためにとても良いことだと思います。



ますだ こうた 益田 晃汰くん

小国町の良いところ、悪いところをしつかり

考えることができました。緊張しましたが、身近な産業と道の駅の質問をしました。実際に町議会の方に聞く大切さを知る事が出来ました。



あだち たつき 安達 龍輝くん

「白い森構想」や小国町の活性化について町としての考えやその

事業を行う背景など、自分で調べたことだけでは分からないことを知ることができました。これからもつと小国町について知っていかなければならぬと感じました。

委員会活動報告

◎小国町議会では、2年で常任委員会等が新体制になります
5月1日に開催された臨時会において、新しい委員会の構成が決まりました。
任期は平成29年5月1日から平成31年4月29日までです。

総務厚生常任委員会

◆委員会の所管

《総務企画課・健康福祉課・町民税務課・町立病院・介護老人保健施設・訪問看護ステーション等に関する事項》

テーマ

地方自治を取り巻く人口減少・少子高齢社会の進展などに対する次代の仕組みづくりとして、次の項目に取り組んでいきます。

- 移住・定住の促進について
- 保育園機能の現状と今後のあり方
- 新小国町立病院改革プランの取り組み
- 公共施設等総合計画の策定について
- 次期総合センターについて
- 定住自立圏構想の推進

NEW

委員	長	遠	藤	和	彦
副委員	長	今		康	成
委	員	高	野	健	人
		小	林		嘉
		石	山		久美子
事務局		後	藤	和	人
		高	橋		佳帆里

文教産建常任委員会

◆委員会の所管

《産業振興課・地域整備課・教育委員会等に関する事項》

テーマ

重点施策として3つのテーマに取り組んでいきます

- 多様性のある機能創出づくり推進
- 付加価値が高まる産業化推進
- 教育の充実による「人づくり」支援強化

NEW

委員	長	伊	藤	重	廣
副委員	長	間	宮	尚	江
委	員	米	野	貞	雄
		安	部	春	美
		小	関	和	好
事務局		小	野	正	晴

議会運営委員会

委員	長	小	林	嘉
副委員	長	伊	藤	重
委	員	安	部	春
		遠	藤	和
				彦

議会広報特別委員会

委員	長	小	関	和	好
副委員	長	今		康	成
委	員	石	山	久美子	
		間	宮	尚	江

4/14
竣工式
終了

《西置賜行政組合》 老朽化に伴う新築移転

新 分署始動です



消防飯豊分署(旧置農飯豊分校跡地へ)



消防白鷹分署(現白鷹町役場に隣接した地へ)

5月26日

第34回町村議会広報研修会 参加してきました

- ◆ 会 場
ビッグウイング(山形市)
- ◆ 講 師
長岡 光弘 氏
(グラフィックデザイナー)
- ◆ 出席広報委員
委員 長 小関 和好
副委員 長 今 康成
委 員 石山久美子
間宮 尚江



自治体の広報クリニックを勉強中!



書 記
高橋佳帆里



事務局長補佐
(兼) 議事主査
小野 正晴



事務局長
後藤 和人

今年度
新体制の
事務局です



おらも おぐに町民

町の人からちょっとひとこと

プロフィール

氏名 保科二三氏 かずみ
 年齢 76歳
 住所 小国町黒沢



Q 初めに黒沢のかやの木についてお聞きします

かやの木については、200年以上前の木という事ぐらいしか聞いていないし文献も無いと思います。

以前は、個人の庭木

という事で墓盤にしたので売ってくれというお話があったそうですが、所有者は、決して売らずに今日に至っているようです。

Q 毎年「黒沢峠まつり」に尽力されていますが今後の予定は、どうなっていますか。

昭和55年に黒沢峠保存会を発足して38年になります。昭和57年に敷石道が町の文化財に指定され、昨年は「やまがた景観賞」の最高賞を受賞し「未来に伝える山形の宝」にも認定されました。今年の6月には「山形県観光物産協会」から功労賞も受賞し、今後黒沢峠を後世に伝えるため頑張っています。

10月26日に「第31回黒沢峠まつり」を開催します。是非ご参加下さい。

Q 議会に対しての要望があればお聞きします。

黒沢峠までは、道路が狭く大型バスはお断り

せざるを得ない状況です。道路の拡幅をお願いしたい。

回決まった人しか質問していない気がします。質問しない議員は、町民の声を反映する気はないのでしょうか。



表紙の説明

今号の表紙は、小国町天然記念物第1号の黒沢のかやの木です。
 指定年月日
 …昭和57年3月31日
 樹齢…約250年
 樹高…22メートル
 周囲…4.6メートル
 天明3年(1783年)の大凶作の翌年は、黒沢峠にあった栃の木と共に葉も実も付かなかったと言われている。

次は9月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62)2448

編集後記

仙台市の人口が秋田県全体の人口を超えたそうだ。もつ数年で山形県を超える勢いである。東北の一極集中の現象であらう。

若い人は、希望の職を求めて大都市に集まって行くので、地方は常時人手不足の状況になってきている。自治体単独では、解決は非常に難しいが、この国には全国町村会という組織がある。力を合わせて何とか国を動かさないものだろうか。

国会は閉会となったが、地方創生は、どうなったのだろうか。

小関(記)

発行責任者

議長 高野 健人
 議会広報特別委員会

委員長 小関 和好
 副委員長 今 康成
 委員 石山久美子
 間宮 尚江